

令和5年度大磯町教育委員会第9回定例会議事録

1. 日時 令和5年12月21日（木）
開会時間 午前9時30分
閉会時間 午前10時46分
2. 場所 大磯町役場4階第1会議室
3. 出席者 熊澤 久 教育長
濱谷 海 八 教育長職務代理者
曾田 成 則 委員
トーリー 二葉 委員
末 續 慎 吾 委員
大槻 直 行 教育部長
植地 直 子 町民福祉部長
波多野 昭 雄 学校教育課長
北 水 慶 一 生涯学習課長兼生涯学習館長兼郷土資料館長
柳 田 美千代 子育て支援課長兼子育て支援総合センター所長兼子育て支援センター所長
佐 藤 聡 生涯学習課図書館長
辻 丸 聖 順 学校教育課コミュニティ・スクール推進担当主幹兼教育指導係長
須 田 幸 年 学校教育課デジタル教育推進担当主幹
熊 澤 香 織 生涯学習課副課長
田 中 恵 子 （書記） 学校教育課副課長兼教育総務係長
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 6名
6. 報告事項
報告事項第1号 国重要無形文化財の保持者の追加認定について
報告事項第2号 令和5年度文化財消防訓練の実施について
報告事項第3号 おおいそ文化芸術祭の開催結果について
報告事項第4号 令和5年度日本PTA全国協議会広報紙コンクール入賞について
報告事項第5号 図書館事業の開催と開催結果について
報告事項第6号 企画展「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬～青磁・竹芸・写真におけるそれぞれの表現～」の開催結果について
報告事項第7号 令和5年度全国学力・学習状況調査の大磯町結果の分析について
7. その他

(開 会)

教育長) 皆様、おはようございます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまから、令和5年度大磯町教育委員会第9回定例会を開催いたします。本日の会議の内容ですが、報告事項7件でございます。

本日は5名出席しておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、定例会は成立いたしました。

本日は傍聴を希望される方が見えておりますので、大磯町教育委員会会議規則第12条及び第17条の規定により、傍聴を許可いたします。

暫時休憩します。

～ 休憩 ～

【令和5年度第8回定例会の議事録の承認】

教育長) 休憩を閉じて再開します。

それでは、はじめに「令和5年度第8回定例会議事録」の承認をお願いします。

まず、「令和5年度第8回定例会議事録」は、お手元に配付しました内容のとおりでよろしいでしょうか。

各委員) 異議なし。

教育長) 異議なしの声がありましたので、「令和5年度第8回定例会議事録」については、ご承認いただいたものとします。

諸行事につきましては執行状況表のとおりです。

今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。

次に、11月定例会から本日までの間に、教育長に委任された事務で重要なものに関すること、専決した事項に関することについて報告はございません。

本日の報告は、以上でございます。

【報告事項第1号 国重要無形文化財の保持者の追加認定について】

教育長) 次に、報告事項第1号『国重要無形文化財の保持者の追加認定について』、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課副課長) 報告事項第1号『国重要無形文化財の保持者の追加認定について』、説明をいたします。

8月の教育委員会定例会において、大磯町在住の竹芸家藤塚洋史氏を重要無形文化財「竹工芸」保持者に追加認定すべきと国の文化審議会文化財分科会が文部科学大臣へ答申する旨の議決があったことをご報告させていただきました。

本件につきまして、令和5年10月18日水曜日に答申のとおり認定され、認定書交付式が令和5年11月29日水曜日に、京都ブライトンホテルにおいて行われましたので、あわせてご報告させていただきます。

報告は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。

<質疑応答> なし

教育長) 文化庁が京都にあるので、京都まで北水課長が代理で出ていただきました。

北水さん、何かありますか。

生涯学習課長) そのほかの人間国宝の方は、歌舞伎であるとか狂言であるとか、そういった部門の方もいらっしやいまして、非常に格式の高い式典だったなというふうには感じており

ます。大変いい経験をさせていただけたと思っております。ありがとうございます。
教育長) 突然振って申し訳なかったです。ありがとうございました。
よろしいでしょうか。

【報告事項第2号 令和5年度文化財消防訓練の実施について】

教育長) 次に、報告事項第2号『令和5年度文化財消防訓練の実施について』、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課副課長) 報告事項第2号『令和5年度文化財消防訓練の実施について』、説明をいたします。

毎年1月26日は「文化財防火デー」と定められ、全国的に文化財の防火運動が展開されており、文化財を火災、震災などの災害から守るとともに、文化財愛護意識の高揚を図ることを目的としたキャンペーンが各地で行われています。

大磯町では、平成21年3月に旧吉田茂邸が火災で焼失したことから、「文化財防火デー」の一環として、文化財の所有者や関係機関、地域住民の方々に対して、防火・防災意識を高めていただくために、実践的な消防訓練を実施しています。

今年度は、令和6年1月20日土曜日、午前10時から10時30分まで、寺坂の王福寺にて、王福寺関係者、生涯学習課、消防本部、消防署、消防団本部及び消防分団が訓練を実施いたします。

訓練は、王福寺からの出火と想定し、119番通報訓練、初期消火訓練、文化財の持ち出し訓練の順に行います。通報に基づき、指令を受けた消防車両が現場に到着し、放水を行います。その後、挨拶と講評を行い、閉会する予定となっております。なお、訓練に伴う県道の通行止めは行いません。

消防訓練については、町ホームページや区長連絡協議会等において周知をしておりますが、今月末に発行される広報1月号により、広く周知を図ってまいります。

報告は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。
<意見>

トリー委員) 質問ではございませんけれども、空気が乾燥してきて、冬って本当に火災が多い時期なので、これはすごく重要なことだと思っております。

皆さんも寒くなりますのでお風邪など召しませんように、しっかりと訓練していただけたらと思います。

よろしく願いいたします。

生涯学習課副課長) ありがとうございます。

濱谷委員) 湯口さんのところもやったんですか。

教育長) はい、この間やりました。

濱谷委員) あそこにあるのは重要文化財ですよ。

教育長) じゃあ、文化財の話をちょっとしてもらってもいいですか。お願いします。

生涯学習課長) いま手元に資料がなく、すみません。

教育長) 王福寺にある仏像は町のほうでも指定させていただいておりますので、収蔵庫を造るときに、私も関わります。湯口さんにご協力をいただいております。

よろしいでしょうか。

【報告事項第3号 おおいそ文化芸術祭の開催結果について】

教育長) 次に、報告事項第3号『おおいそ文化芸術祭の開催結果について』、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課副課長) 報告事項第3号『おおいそ文化芸術祭の開催結果について』、説明をいたします。

「おおいそ文化芸術祭」は令和5年10月29日から12月3日を開催期間として、おおいそ文化芸術祭実行委員会の企画運営により、国府小学校体育館や図書館、生涯学習館などの施設で開催いたしました。

今回の参加団体は26団体で、来場者数は人数確認をしていない大磯まつりと写真展を除いて595人でした。会場ごとの人数等については、表に記載のとおりとなっております。

また、地区における文化祭は、10月21日から11月5日の期間内に8地区において開催されました。

説明は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。
<質疑応答>

濱谷委員) おおいそ文化芸術祭は、新しい試みでのスタートでしたね。この数字を見ると、595名で、それぞれ、多くの方たちが来場され多様ですけれども。これは全般的に見て、町民の方たちの反応というのはいかがでしたでしょうか。

生涯学習課副課長) 私どもも各会場のほうで様子と一緒に見させていただいき、特に国府小学校の体育館のステージ発表で、7団体の方が参加されておまして、皆さん本当に楽しそうに、いきいきと演奏されていました。ご覧になった方々もかなりいらっしやいまして、私のところに、来年またこのような催しがあれば、ぜひ参加したいと、2団体くらいの方がお声かけくださってまして、とてもよかったですので、来年もやってほしいというようにお声もいただいております。

その他、生涯学習館のほうの会場では、展示と体験をやっておりましたけれども、5団体の方が参加されまして、2日間行いました。参加団体の方には、かなりのボリュームの展示をしてくださり、年齢層も若い方から年齢の高い方まで、かなり幅広い年齢層の方にご参加いただきました。ご覧になってくださった方も、かなり幅広い年齢の方が来てくださったような情報を私もいただきました。

これからも、文化芸術祭の実行委員さんとよく話し合いを持たせていただいて、来年はまたさらに充実した文化芸術祭ができるとよいと考えております。

以上です。

濱谷委員) ありがとうございます。

それからもう1点ですけれども、チラシの反応はいかがでしたか。

生涯学習課副課長) 今年のチラシは、かなり例年よりも違ったというような反応をいただいております。芸術的と言いますか、見やすい、よいチラシができていますので、来年もこういう形で、いろいろな広報ができるといいですねということでお話は聞いております。

私どもも文化芸術祭の実行委員さんにお話をし、また来年はより良い内容で進めていければよいと思っております。

以上です。

濱谷委員) ありがとうございます。

教育長) ありがとうございます。

私も、この表のジュニアのユース演奏会が他とぶつかって行けなかったんですが、後は全部回らせていただいて、もう10月から12月の土日はフルに何かしらをやっていただいているという。町を挙げて文化芸術祭ができるような形で、この生涯学習課のほうでやっている以外にも、それぞれの団体とか、後で出てきますけど、図書館とか郷土資料館でもそれぞれやっておまして、もう本当に町を挙げていろいろな催しをやっていただいて盛り上がったなという感じでございます。

実行委員さんも結構短期間で大変だったと思いますけど、これからは少し、もう一度再検討しながら次に進めていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。
濱谷委員) ありがとうございます。
教育長) よろしいでしょうか。

【報告事項第4号 令和5年度日本PTA全国協議会広報紙コンクール入賞について】

教育長) 次に、報告事項第4号『令和5年度日本PTA全国協議会広報紙コンクール入賞について』、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課副課長) 報告事項第4号『令和5年度日本PTA全国協議会広報紙コンクール入賞について』、説明をいたします。

大磯小学校PTA広報紙「いそかぜ」が、全国2位にあたる「公益財団法人日本PTA全国協議会会長賞」に入賞し、令和5年11月24日金曜日、ホテルニューオータニにおいて表彰式が行われました。

同校は、令和4年度に発行した広報誌が、神奈川県PTA協議会広報紙コンクール審査会において最優秀賞の神奈川県PTA協議会会長賞を受賞し、全国大会に選出されていました。

説明は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。
<質疑応答>

トリー委員) 本当にすばらしいと思います。特に、この大磯小の「いそかぜ」は、昔からとても優秀で、皆さん頑張ってください、今回もまた150周年とか、今年あったんで、これは1年前のになるのか。今PTAがいろいろ過渡期にあたっている時代ですけれども、その中ですごくよく頑張っていてくださっているなどと思って、感謝、感謝です。本当におめでとうございました。と、PTAの方々にもお伝えください。

生涯学習課副課長) 承知しました、どうもありがとうございます。

濱谷委員) 質問ではないんですけども、聞きたいんですけども、「いそかぜ」は大磯小学校ですが、国府も出していますよね。それから、大磯の広報紙もあるし、僕もこう見ていて、あれは子どもに向けた視点で表紙なんか作られていますよね。広報紙なんかもそうなんですけど、そういう、こう、勉強会というのが、生涯学習課でやっていらっしゃるんですか。広報を作るときノウハウを教えるとか。

生涯学習課副課長) 生涯学習課のほうでは、広報紙のノウハウ等は今年度のところは開催しておりません。

濱谷委員) そうすると、伝統的に誰かが教えていくということなんですかね。そういう理解でいいですか、指導主事。

割と立派なものを作るんだよね。

コミュニティ・スクール推進担当主幹) 基本的には、PTAの中で、役割というか、それにあたる部分で広報紙を作りたいという保護者の方が集まっていたら作っているという状況がございます。

大磯小については、割とその保護者の方で、お仕事でそういう関係のことをやっていた方というのが、毎年1人、2人いらっしゃるという形で、その方を中心に広報紙を、本当に保護者が作ったのかと思うくらいすばらしいものを作っています。

私も大磯小にいたときは、教員の紹介なんかでも、ポーズから何かから、こうしてほしい、ああしてほしいというのもいただきながら、一緒に作らせていただいたのを覚えておりますので、そういうのが受け継がれているというようなことだどご理解いただければと思います。

なお、今年度、国府小は広報紙を作っていないというような形でございます。この辺も

PTA のあり方というか、いろいろ、保護者の中でも話は出ておりますので、この、無理のない範囲で広報紙等を続けていくというところは、今後も学校とともに考えていければいいんじゃないかなと思います。

以上です。

濱谷委員) ありがとうございます。

ということになると、あまりプレッシャーをかけると、もうそういう係になったら嫌だなってこともね、そういうこともあるので、気をつけなきゃいけないものだと思います。

要は、ここまでの広報紙が伝統的にあるならば、本庁舎のロビーのところに、大磯町の長年の、150年まで全部は無理でしょうけれども、10年間くらいの変遷を振り返ってみるとか、何かそんな感じでまた検討していくのも。そんなことまですると、また、いや、大磯小に入ると広報担当になると嫌だなという方が懸念するのもありますけども、何かこう、うまく町民にアピールしていきたいなというふうに思います。

芸術祭のパンフレットもそうですからね。やっぱり立派なものを作られていますので、これこそ大磯の特徴なのかなという気がしますので、そんなことを生涯学習課のほうでご検討いただければありがたいなと。

以上でございます。

トリー委員) 保護者の方が、熱心な方がね、広報に関しては結構いらっしゃって、ありがたいことです。

教育長) 大磯小のPTAはサポーター方式と言いますか、だから、広報は広報サポという名前を付けて、やりたい人この指とまれ方式でやって、そういう中でも今、指導主事さんの説明のとおりです。

トリー委員) いるんですね、割と。

教育長) そういうことに非常に力を持っていらっしゃる方が、仕事上でもやってきた方とか、実際に今デザイナーとして活躍している人とか、素人集団とはちょっと言い難いような、さっきの文化芸術祭もそうですけれども、それなりに経験のある人がいて。

昔はPTAのほうで研修会をやったりしていました。今もその形をと言っているのは、秦野市が、元校長さんという方が結構PTAの広報紙を集めて研修をされる。その方を大磯のほうに呼んで研修をやったこともございますし。いま県P連のほうで、よかったですらどうぞという研修を開いたりするときもありますので、その気になれば、結構そういう学習できる場所はあるんですけど、もうそれ以上にすばらしい方が揃ってやっていらっしゃるんで、余計な事を言わなくてもいいというのが、申し訳ないんですけど、教育委員会が人を集めてやるというようなことをしなくてもこんなにやってくださる。ありがたいことだと思っております。

よろしいでしょうか。

【報告事項第5号 図書館事業の開催と開催結果について】

教育長) 次に、報告事項第5号『図書館事業の開催と開催結果について』、事務局より報告をお願いします。

図書館長) 報告事項第5号『図書館事業の開催と開催結果について』、報告いたします。

ページをおめくりください。

第22回大磯図書館まつりの開催結果につきましては、記載のとおりとなります。

今回は新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、コロナ禍以前の催しをできる限り再開しました。以前に比べて定員を少なくし、特に2階大会議室の古本市は場内の定員を50人としたことから、「ゆっくり本を選ぶことができた」との感想をいただきました。

また、キッズ古本市を玄関前で実施したことにより、入場者数の半数近くの方に来ていただき、大磯図書館まつりの周知にもつながったのではないかと考えています。

ページ変わりました、絵本作家玉田美知子講演会の開催についてでございます。

この講演会は児童文学作家の話聞くことにより、著者に親しみを感じ、読書をより身近なものとするきっかけを作ることを目的とするものです。

講演内容は、「初めての絵本ができるまで」と題して、絵本『ぎょうざがいなくなりさがしています』（講談社 2023年8月刊）の作者が、絵本制作の過程について語り、後半は作品を題材にしたワークショップを行います。

講師の玉田美知子氏は、1977年生まれ、神奈川県在住。多摩美術大学立体デザイン専攻卒業。第21回ピンポイント絵本コンペ入選、第42回講談社絵本新人賞佳作受賞。2022年、『まよいぎょうざ』で第43回講談社絵本新人賞を受賞。『ぎょうざがいなくなりさがしています』と改題し絵本作家としてデビューしました。

略歴では、神奈川県在住となっておりますが、町内在住者です。

また、『ぎょうざがいなくなりさがしています』の原画全点を2階展示コーナーにて展示します。

そのほかは、記載のとおりとなります。

報告は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。

<質疑応答>

濱谷委員) この大磯の小中の卒業生ではない。

図書館長) ではないです。引っ越しされて来ています。

濱谷委員) そうですか。分かりました。

教育長) よろしいでしょうか。

図書館長のほうで、毎回、いろいろな企画をしてくださって、私もできる限り行こうとしているんですけど、今回もぎょうざがどっか行っちゃったという企画も楽しみにしていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

【報告事項第6号 企画展「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬～青磁・竹芸・写真におけるそれぞれの表現～」の開催結果について】

教育長) 次に、報告事項第6号『企画展「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬～青磁・竹芸・写真におけるそれぞれの表現～」の開催結果について』、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課長) 報告事項第6号『企画展「大磯の風土が育んだ・三人の憧憬～青磁・竹芸・写真におけるそれぞれの表現～」の開催結果について』、説明いたします。

資料1ページをご覧ください。本展示は、大磯の自然豊かな風土で育ち、現在、芸術界で活躍される三人の作家、陶芸家・川瀬忍氏、竹芸家・藤塚松星氏、写真家・増尾峰明氏にご協力いただき作品展を開催しました。会期は令和5年11月2日から12月10日までで、会期中の33日間に4,862人にご観覧いただきました。

また、会期中の11月5日にはギャラリートークとして、三人の作家に大磯との関りや作品の見所についてご講話いただきました。定員60人としていましたが、2倍の122人の方々にご参加いただきました。

説明は以上です。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。

<質疑応答>

トリー委員) 私も実はこれ、伺いたいと思っていたんですけど、ちょっと日曜日とか、いろいろ、ちょっとこのあたりが忙しくて伺えなくて、とても残念でしたが、すごい観覧者数も多くて、よほど大盛況だったんだろうなというのが見て取れますが、アンケートとかはや

られたんですかね、参加者の。

生涯学習課長) こちらについては、アンケートは実施しておりません。

トリー委員) そうですか。分かりました。

何か参加なさった方から感想みたいなものって、伺っていますでしょうか。

生涯学習課長) 参加された方からのご意見なんですけれども、今回ギャラリートークが終わった後で、3人の方とフリートークできるような機会を設けたんですけれども、具体的に作品の苦労話であるとか、そういったところを伺えて非常によかった、また、作品を前に具体的にここがこうで、というような話を伺えてよかったというような声をいただきました。

以上です。

トリー委員) 分かりました。よかったですね、すごく、倍の人数が参加されたということで、本当に盛況だったんだろうなというのが分かりますので。またこういう機会をこれからも楽しみにしております。よろしく申し上げます。ありがとうございます。

教育長) ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

何しろ、これだけの人数が集まるとどうということになるかということ、私は研修室のはるか外に出て、全く聞こえないというふうに。みんな椅子を出していただいて、外まで椅子を並べて、本当にすごいなど。

終わってからがまたフリートーキングが長くて、最後は同窓会みたいに、要するに地元の作家さんたちですから、お友達がもう楽しみに見えて、まるでそれぞれの同窓会をやりだしたみたいに、本当に楽しそうでよかったですと思います。

この後も、他の団体さんが企画してやっていただいたのが二つございまして、それも全部行かせてもらったんですけど、それはもう人数を絞ってやっている中でよく話が分かりました。どちらもお話も上手で、楽しかったと思います。

よろしいでしょうか。

【報告事項第7号 令和5年度全国学力・学習状況調査の大磯町結果の分析について】

教育長) 次に、報告事項第7号『令和5年度全国学力・学習状況調査の大磯町結果の分析について』、事務局より報告をお願いします。

コミュニティ・スクール推進担当主幹) 報告事項第7号『令和5年度全国学力・学習状況調査の大磯町結果の分析について』、ご報告いたします。

資料をご確認ください。

まず初めに、本調査の目的ですけれども「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ものということで、国が実施しているものです。こちらに大磯町も参加をするという形で実施させていただいております。

この令和5年度の「全国学力・学習状況調査」ですけれども、令和5年4月18日に実施しました。本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年、その全児童生徒を対象としたものでございます。大磯町は生沢分校在籍の子どもも含め、小学生248名、中学生245名が参加したというところでございます。令和5年7月31日に文部科学省からの調査結果公表を受けて、町のほうで、この「全国学力・学習状況調査」の結果分析・活用検討委員会を組織しまして、町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してきました。

この調査については、「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二本立てで行っております。「教科に関する調査」は、「国語」「算数」「数学」。そして中学校については、「英語」も今年度は実施されるということになり、特に英語の

「話すこと」に関する調査については、1人1台端末を活用したオンライン方式による実施ということでやらせていただいたというところです。

では、調査の結果についてなんですけれども、資料にある1枚目のとおり、評価別の調査結果といたしまして、小学校「国語」は平均正答率63%、「算数」58%。中学校の「国語」、平均正答率は72%、「数学」53%。「英語」の平均正答率55%、そして「話すこと」の平均が18%ということになります。

これにつきましては、そこに国や県の平均正答率を載せていないですけれども、概ね国・県と同等と、あるいは少し高い数値もある部分もある部分もあり、大磯町としては、十分子どもたちに対して指導できているというような、大まかな調査分析はできたかなと思います。

そして、ただ、これはあくまで平均正答率の問題であって、その次のページから評価に関する調査結果ということで、ここ5年間くらいは、それぞれの評価について、特徴と課題というところで、町全体のよいところと課題、指導の改善・充実が求められるものということで、それぞれまとめております。それに対してこういうふうに取り組んでいったらよいのではないかということもそれぞれ書かせていただいておりますので、こちらについては後でご確認いただければ、記載のとおりでございますので、よろしくお願いたします。

5ページ目、6ページ以降に、「児童生徒質問紙調査結果」というものも今回は載せております。

こちらについては、アンケート方式ということで、子どもたちの意識調査というような形になります。その中で、特に国や県と比べて高かった部分の、十分数値がよい部分で、いい意味で高かったところについては、例えば生活習慣、家庭学習に関する調査結果のほうの表の下の方、「今住んでいる地域の行事に参加している」あるいは「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」。この辺については、国や全国の平均よりも高い数値が出ているというような部分、あるいは同じくらいというところですけども、出ておりますので、こういった大磯町の子どもたちの気質・性格などもしっかり育てていきたいなというふうに考えております。

また、「学びに向かう力に関する調査結果」ということで、6・7ページにわたって飛んでしまうんですけども、ICT、5年生までに、あるいは中学1、2年生で受けた授業で、パソコンやタブレットなど、ICT 器機を週3日～ほぼ毎日使用するというところについては、本当に県や全国に比べても高く回答率が出ております。中学校等はまだ97.9%ということで、いわゆる中3の子たちは、毎日タブレットを使った授業ができているという認識でいるというところなんです。これについては、本当に大磯町の強みになっていくのかなと思いますので、小学校のほうも数値が高く、今回アンケートで出ましたけれども、6年間にわたっての部分、あるいは小中9年間にわたっての部分ということで、しっかりこういったところもまた伸ばしていきたいというふうに思っております。

この調査結果は十分に活用しまして、調査の目的を達成するために、これは町全体の、今回は結果ということでご報告させていただきましたが、各学校においても学校ごとの調査結果のまとめをしております。これらにつきましては、年明けに町のホームページを通じて公表させていただき、学校からも保護者等に周知をするというような予定で今進めております。

本当にこの調査結果、やっておしまいではなくて、ここで出ている見目の数値だけで一喜一憂するのではなく、その特徴とか課題、よいところはさらに伸ばしていく、課題になっている部分は、例えば、小学校の課題は中学校にもしっかり情報共有する、中学校で課題となっている部分は小学校に情報共有して小委学校の段階から改善に向けた取組を行っていくなど、それぞれ、そういうふうに、この調査をもとに対策・対応をしっかり立てていく。そういった部分を教育委員会としましても学校とともに実施していきたいと思っております。

報告につきましては、以上となります。

教育長) ただいま事務局報告のありました件につきまして、ご質問等があればお願いします。
<質疑応答>

トーリー委員) これも質問ではありませんけれど、数値も見て、本当、概ね、よくできて頑張っているな、大磯えらいぞという感じなんですけれど、やっぱりこれはもう大磯のじゃなくて、全国的になんでしょうけれども、中学校英語のところ、話すこと18%という、これ、随分極端に数値が低くなるなと思って、ちょっと英語を文科省さんも力を入れ始めている割にはちょっと残念だなと思っておりまして、これはもう今後課題で、全国的にやっっていかなきゃいけないことだろうと、ちょっと感じたところでございます。

でもすごく先生方もしっかり指導していただいて、いい数値だと、全国と見ても高いので、よくやっていただいている、ありがたいなと感謝しておりますが、これをまた励みにまた精進をしていただけたらなと思っております。ありがとうございます。

濱谷委員) 質問する内容を、今どうやって整理しようかなと思って、少しあっちに飛んだりこっちに飛んだりするかと思えますけれども、指導主事、よろしく願いいたします。

まず、この学習状況調査を大磯は受けないよ、という考え方というのは成り立ちますでしょうか。まずこれから聞いていきたいと思うんですけども。

コミュニティ・スクール推進担当主幹) もちろんこれ、全国悉皆というような形でやっておりますけれども、市町村によっては受けないという選択肢をしているところもどうやらあるようです。

ただ、今のところ大磯町としても、この比較対象という部分で、全国規模のこの調査に参加することで、町の学校の授業が子どもの資質・能力の育成に結びついているのかというあたり、町独自の、これに参加しない市町村によっては、その市町村独自の調査をしているから参加しないというようなこともありますけれども、大磯町、ちょっと今そういう町独自の調査というものはやっておりますので、やはり客観的に比較対照できる部分ということで、この学力・学習状況調査には、特段支障がなければ、学校とも確認の上、今後参加していくというところは考えております。

以上です。

濱谷委員) ありがとうございます。学力を担保しようという一つの指標になるのが、今大磯は学習状況調査であると、こういうことでよろしいわけですね。

そして、この結果を僕らは今報告書を読ませていただきましたけれども、年明けにホームページ、それから保護者等へ公表していくということですが、どこの範囲まで公表されるおつもりでいらっしゃいますか。

コミュニティ・スクール推進担当主幹) 今回の報告事項ということで付けた資料については、これはそのままホームページに載せる、掲載するものということで、ここまで報告するという形です。

これに加えて、学校ごとに、学校の数値は入っていないですけども、国語・算数・数学・英語という形の特徴と課題、あるいは対応、あとは質問紙調査などを見て、学校独自の分析や、それを踏まえて地域の方や保護者の方をお願いしたいこととか、こういうことを一緒に考えていきたいと思いますというようなコメントなども書いて、文章形式で、それもそれぞれ、学校のホームページでも掲載しますけれども、町のホームページにおいても4校全て載せていく。すみません、生沢分校につきましては、いろいろ事情もありますので公開はしていませんけれども、4校につきましてはそういうような公表の仕方をしていると。これは毎年そのような形でやっているというところでご理解いただければと思います。

以上です。

濱谷委員) ありがとうございます。

ということで、これから保護者のほうに周知される。あるいはホームページにも掲載され

ていくということで大変いいのかなと、いいこと、悪いことも全て出ておりますので、またやらなければならないこともしっかりと教育委員会のナンバー4の中に書かれています。

ただ、私、ちょっと気になるのが、これを公表していくことによって、「児童生徒質問紙調査の結果から」のところで、小中同じですかね「人が困っているときは、進んで助けている。」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」というところに関して、小学校が 90.8%、そしていじめ、どんな理由があってもというのが 94.8%。中学校は 87.6、91.8 ということで、まあ、国、神奈川を見れば大体同じような、同等の数字でしょうけれども、このところをどう、また、特に僕が気になるのは、大磯小学校の保護者等がこういうところを気にしながら見ていくのかなという感じがいたしますので、この数字に関して学校のほうからもし質問があれば、お答えができるようなことになっているのかなというように感じもいたしました。

それから、「学びに向かう力に関する調査結果」ということで、総合的な学習時間ということで、調べたことを発表するなどの学習に取り組みを進めていると。これが大磯小学校が 71.0、中学校が 82.3%ということで、中学校はしっかりと、数字を見るとされているのかなと。小学校のほうが少しここのところの数字、数字だけ見ると低いのかなという感じを受けました。

それから、最後のところにタブレットの ICT 教育のところは、県よりも国よりも突出しているということでしたけれども、しかし教科を見ていくと、やはり課題が残っていますよね。その課題も小学校の算数の場合は数の計算、図形、データの活用、これが課題があるよということですので、これ、僕に言わせると一番大切なところなんじゃないかと思うんですね、小学校の算数の学力担保をするというのは大事なところなんだろうというふうに思いますし、それから国語についても、話すこと、聞くこと、読む事についても課題があると。ですから、ICT 教育が、タブレットが進んでいるから、じゃあここのところはどうかクリアしていくのかという、これが今一番議論されているところなんじゃないかなという気がいたします。ひとつ、ここのところもタブレット、子どもたちがそれを使いながら日常生活をしていく、授業の中でもそれが使われている、これは大いに結構ですけれども、こういう領域もしっかりとタブレット等で補っていく、そんな指導計画を作られていったらいいのかなということを素人ながら考えたところであります。

一つ、小中の学習指導要領のところをもう一度精査をしていきながら、中学校、小学校の場合には、中学校教育、及びその後の教育との円滑的な継続が図られていくような指導・工夫をお願いしたいなという感想がここのところからありましたということです。

以上です。質問に当たった僕の個人的な感想だったのか分かりませんが、そこを少しだけしていただいて、もし指導主事のほうから何かあれば、お答えください。
コミュニティ・スクール推進担当主幹) 貴重なご意見、ありがとうございました。

もちろん、毎年小6、中3というのは変わりますので、数値もそのときの子ども様子によってというところは理由としてあるのかもしれないですけれども、ただ、経年で見えていくと、やはり我々の指導のあり方として、毎年こういうところが同じように弱い、課題として残っているというところは見えてくると思います。そういったところを今職務代理がお話いただいたように、やはりタブレットをただ使うのではなくて、どういうふうに使っていくのか。これが本当の次からの課題かなと思います。

例えば図形データの活用とかでしたら、やはりそれは視覚的にタブレット、ICT 機器を使ってやっていくほうがより理解が高まるのではないかと、その話すこと、読むこととかというのは、ただタブレットを使えばいいということじゃなくて、そのタブレットを使わない時も含めてしっかり読ませていく、話をしていくとかというところ。話すというのは言葉で伝えるだけじゃなくて、その書いたものをお互いに見合うというのも一つのコミュニケー

ションのやり方かなというふうに思っています。そんなことも ITC 機器を使う、使わないという効果的な事も含めて、我々、小学校中学校4校でしっかりこの、ただ調査に参加するのではなく、改めて中身で1人1人が受け止めて、いわゆる担当した教員だけが分かっているのではなくて、全ての教員がしっかりこの結果を受け止め、何が日々の授業で改善できるのかなというところをしっかりと我々教育委員会主導で学校と共にやっていきたいなと思います。

もちろん、やっぱり授業が楽しく、理解がよくないと、わくわくした気持ちで学校に来るということにならないし、やはり自分の気持ちがそういうふうにならないと周りの子どもたちに対して、自分以外の子に対して同じような優しい気持ちを持ってない子どもが増えてしまうという部分もあります。この授業と生活のこと、全てリンクしていると思っておりますので、このへんのところを、今の貴重なご意見も受け止め、しっかり対応していきたいと思っております。

ありがとうございました。

濱谷委員) 逆にありがとうございました。よろしくお願いいたします。

教育長) ありがとうございます。

委員ご指摘のとおり、これをやるかやらないところからスタートしている。毎年そうなんです。大磯はやるほうを選択しているところからで、この間も県のほうの研修会でも講師の方がこれを作っている方の方だったのでお話のとおりなんですけど、結局は子どもたちができた、できない、1問みんなが正解すれば、パーセンテージは数が少ないのもものすごく上がってしまうんですけど、それに一喜一憂するわけじゃなくて、結果的にそれを指導している教員が、自分たちのこれからの取組に生かすということが一番最優先の内容ですので、これを見て私たちはどう考えるか。

今、御指摘いただいたとおり、困っているとかいじめとかそういうのを見ると、やっぱり、現状だなという気がするんですね、やっぱり、実際こうなんだろうかと、そうすると、じゃあどうするかということが次に出てこないといけないことはもう重々承知しておりますので、今後ともそういう方向でやっていきたいと、ただ、子どもたちのいいところもたくさんありますので、大磯すごいねという部分ももちろんいっぱいあるので、その辺をうまく見極めながら、それが最終的に学力に反映するような形が取ればいいなというふうに思っています。

ぜひ皆さんで情報を共有して頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

【その他】

教育長) 次に「その他」について、何かございますでしょうか。

それでは、事務局からお願いします。

教育部長) 次回の教育委員会定例会は1月18日、木曜日、午前9時30分から、本庁舎4階第1会議室で開催予定です。

教育長) それでは、以上をもちまして、令和5年度大磯町教育委員会第9回定例会を閉会いたします。お忙しい中、長時間に渡りご審議いただきまして、ありがとうございました。お疲れさまでした。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

令和6年1月18日

教 育 長 熊 澤 久

教育長職務代理者 濱 谷 海 八

委 員 末 續 慎 吾

委 員 トーリー 二 葉

委 員 曾 田 成 則
